

宇宙の起源とサイバー空間

稲宮 健一

通信技術者として馴染のあるマイクロ波で天空を観測すると、宇宙の起源である一三八億年前に起きたビックバンの痕跡が今に伝えられていると云う。天空にアンテナを向けて受信機を作動させると、人による発信源が何も無いにもかかわらず、天空の全方向から、ごく僅かな電波が受信できる現象を発見した。これが一三八億年前に発生したビックバンの痕跡で、この現象を宇宙マイクロ波背景放射現象と称して、宇宙の起源と膨張する宇宙を我々に伝えているという。

宇宙は天体望遠鏡、電波望遠鏡、人工衛星などで観測されるが、間接的データ以外に身近な地球上の物体や、月、飛来した隕石、はやぶさ2の岩石など手に取って触れられる天体の物体に実感がわく。天空は同じような物体で構成されているのだろう。

無限の時の流れにある宇宙空間のほんの片隅にある地球上でうたかたの一瞬に浮上したサイバー空間が今ホットだ。この空間は有機質からなる人間界の思考に基づく知恵の蓄積によって築かれたものである。生命の誕生以来、人類が登場し、総ての人が考えたこと、酔歩運動のように紆余曲折にしながら、サイバー空間に達した。この空間の表現に無機質な媒体は使われているが、コアは思想体系であって、生きている人から人へと伝わり、その接点で、新鮮な発想が加えられ現在に至っている。願わくば人にとって進歩と言える推移で変化して行って欲しい。

思想体系は参画する人の千差万別の考察の結果として、統合され方向が形成されるもので、その過程で抑圧的強制があれば、総合的な方向付けが汚染される。自由な発想と提起される新鮮発想が主役である。

宇宙空間は構成する要素からなる全体のエネルギー最小となる点に安定点があるように落着く。人間界では大きなものに巻かれると、一種の安定点があるが、窮屈で生きていけないし、社会が劣化する。やはり、五箇条の御誓文を肅々と進めると同時に、異端を排除せず総員の幸せに結びことを期待したい。

参照：村山 斉著 「宇宙はなぜ美しいのか」